

地域における金融の役割 —戦後北海道の金融と信用金庫

札幌大学経済学部

教授 岩堀 洋士

司会：ありがとうございました。それでは続きまして、北海道の信用金庫も含めた、地域金融について、当札幌大学経済学部教授の岩堀先生よりご報告いただきたいと思います。テーマは「地域における金融の役割—戦後北海道の金融と信用金庫」です。よろしくお願いいたします。

岩堀：札幌大学の岩堀です。今回のシンポジウムのテーマが「地域における金融の役割」ということで、北海道の信用金庫を中心に地域金融について話して欲しいと私への報告依頼がありました。ここ数年間、信用金庫に関する研究を続けていた関係上、今回はこのテーマでお話させていただきます。今日お話することの概要は、レジメに記しておきました。そこに記した事実に即しながら、数字を追いかけるかたちで、対象を北海道の信用金庫においた場合、こんな問題点が出てくるのではないか、その問題点・課題に対してどんな対応が現実になされているか、そのようなことをご報告させていただきます。理論的な部分ではなく、実態の部分から地域金融の在り方を考えてみたいと思っております。



まず、レジメ冒頭の「はじめに」に関係することですが、信用金庫あるいは信用組合の成立事情や経緯については既に韓先生からご報告がありました。九州であれ、北海道であれ共通する事柄ですので、その部分については割愛したいと思います。今日の状況を考えた場合1990年代以降が問題になると思いますので、90年代以降どんなことが、どんな実態として現れてきたのかということ、配布の参考図表を題材にお話ししていきたいと思っています。

第1表をご覧ください。1965年以降の主要金融機関の変化を示したのですが、左側に北海道、右側に参考の意味で鹿児島県と沖縄県の数字も示しておきました。北海道の銀行は、1997年11月に北海道拓殖銀行が経営破綻を起こし他行に営業譲渡したことから、4行が3行に減りました。その後、残った3行のうちの2行が業務提携、経営統合、更には合併という経過を辿って1行になりましたので、現在は北海道に本店を置く銀行は2行になっております。信用金庫業界でも徐々に合併が始まりました。信用組合も90年代末の金融危機の中で、2組合が経営破綻を起こし、別の信用組合に統合されました。信用組合をおそった経営破綻の波は、この時期よりはむしろ2000年、2001年から2002年の3月にかけての時期で、全国的には70を超える信用組合が経営破綻を起こし、破綻処理されます。いわゆる不良債権を強行的に処理する動きが出てくるなか、特に大きな影響を受けたのが信用組合だったわけで、北海道でも、6信用組合が経営破綻処理を受けました。そうした激動とも言える時期を経過するなかで、銀行、信用組合、信用金庫は店舗数が何れも減少してきております。ただ、信用金庫の場合は23金庫で、全国的にも1都道府県の中でこれだけの信用金庫があるのは北海道だけですが、店舗数は一旦減ったのですが、また増やしてきております。そんなことから、北海道における信用金庫は、非常に強固な地盤を持っている金融機関だと言えます。

次の頁の第2表は、金融機関間のシェアを示したもので、これも左に北海道、右に鹿児島県を記しておきました。見られるとおり、信用金庫の占めるシェアは徐々に徐々に拡大してきています。逆に信用組合は減少の一途をたどっているという状況にあります。先ほどの韓先生のご報告では、鹿児島県の場合には農業に強い産業基盤があるとのことでしたが、北海道もかなり強いものがあります。農協の預貯金シェアで言いますと、北海道の場合には10パーセントを割っておりますが、確かに鹿児島県の場合には15%近くのシェアを占めています。ただ、それに比べて貸出シェアは低いという事実も、この表からうかがわれます。

第2表では金融機関種別の預貸金シェアと信用金庫の位置を見たのですが、今度は信用金庫を対象とした都道府県比較をしてみます。それが第3表です。信用金庫が非常に強い

都道府県として挙げられる8都道府県と参照例としての鹿児島県、この9都道府県の信用金庫の預貸金、預貸率を見ました。東京は別格としまして、京都、静岡は信用金庫が強い地区として取り上げられるのですが、北海道も、量的にはそれらに劣らないシェアを占めています。しかし最も顕著な数値は、預貸率の部分です。北海道を見ていきますと、2000年でもかなり低いのですが、全体的に低い。つまり集めた預金の半分も貸出運用できないということが、他県と比べても非常にはっきりしています。それに比べて鹿児島の信用金庫は、ここに挙げた9都道府県の中で一番高い預貸率を示しております。改めて調べてみて、北海道と鹿児島の信用金庫はいわば対極的な位置にあるということが、認識できました。

このように、北海道の場合、信用金庫という業態は全国的に見ても比較的安定し、評価が高い地域になっております。ただ、問題も非常に多い。やはり最大の問題点は、預金を集めることはできるけれどそれを貸出運用できない、預金の半分も貸出運用できていないということです。私はその点に注目しました。

なぜ、こんな状況になってしまったのか、そのことを考えてみます。レジメで言えば2番目の項目になりますが、そちらに話を進めたいと思います。

その背景のひとつには、全国的な景気動向のなかで、北海道には、景気が悪くなる時には一番早く悪くなる、景気が回復に向かうときには一番遅く回復するという状況があります。そうした流れのなか沈滞状況がずっと続いている、なかなか回復の兆しが見られないという、北海道の地域状況がひとつあるかと思えます。信用金庫がそれぞれの地域に地盤を持っているとすれば、その部分が大きく影響してきている。北海道を代表する産業に農業、水産業がありますが、水産業は200海里が設定されて以降、函館、釧路という昔から北海道を代表する水産業、造船を支えにしてきた都市が、なかなか回復できない。そのような北海道経済の状況の下ではなかなか運用先が見つからない、これが実情ではないのかなという思いがあります。

こうした北海道経済全般の状況に加え、もうひとつ、北海道のなかで進んできた「札幌への一極集中」という実態も影響してきます。地元運用先がなかなかない、どこで運用するかといえば札幌というところが注目されます。第4表をご覧ください。1990年1月までは銀行の他に相互銀行が存在していました。その相互銀行が1990年2月一斉に普通銀行に転換し、第二地方銀行となりました。したがって1990年以降の「銀行」欄は第二地方銀行(旧相互銀行)を含む数値で、85年以前は相互銀行を含んでおりません。第4表は、銀行・信用金庫が預金・貸出において、全道に対して札幌市がどれだけの比重を占めているかを示したものです。銀行は預金の半分強、貸出の6割以上が札幌市に集中してい

ます。信用金庫も、預金ではほぼ1割なのですが、貸出金では2割。つまり、貸出面では札幌に依存する度合いが強いという姿がこの数字です。つまり、北海道では札幌への一極集中が進んでいるということを反映して、銀行にしる信用金庫にしる、金融面でも札幌への一極集中が進んでいるわけです。

そうしますと、北海道全体で平均化した北海道の信用金庫の預貸率がどのくらいだというデータは、実は必ずしも実態を反映する数値ではないということになります。札幌と、札幌以外のところでは、まったく違う状況が現れてきます。それが第1図です。左目盛が預金で、右目盛が預貸率です。かけ算をすれば貸出額が出ますが、グラフの関係で貸出額は割愛しました。札幌では、預金のほとんどが銀行で、信用金庫はわずかしかなかった。ところが、札幌市以外の地域にいきますと、近年はむしろ信用金庫の預金が多くなっています。つまり、「札幌市」と「札幌以外の地域」では、金融の担い手である金融機関がまったく異なってしまっている、北海道として一括してはつかめなようなものが北海道の姿であろうと考えられます。

話が少し脇道に逸れますが、北海道の金融実態がそうでありながら、実は公表資料から道内各地域の数値、実態を整理・把握しようとしても、それが困難な状況になってきました。皮肉なことです。2005年までは、北海道財務局が『北海道金融月報』という雑誌を毎月出しており、個別の金融機関の預金、貸出金まで集計、公表していました。「地区」別にも、銀行と信用金庫、相互銀行の預金・貸出金の数値を出していたのですが、この地区別業態別の数値は2006年の9月が最後で、最近では全道の数値のみです。道内各地域別の数値は、財務事務所および日本銀行の道内各支店が一部公表しているのですが、集計、比較できる基準、書式にはなっていません。「札幌市」の数値は『札幌市統計書』で公表されるのですが、これは「年末」数値です。このような事情から、現時点では、日銀が出している全道の数値と札幌市の数値から類推する以外ないものですから、2008年以降はその数値を使っています。

そのような苦労話はともかくとして、預貸率に注目すると、札幌ではかつては銀行の方が高かったのですが、最近では信用金庫もかなりがんばっている、銀行よりむしろ高いというような状況です。ところが地方に行きますと、信用金庫の預貸率は40%台というような酷い状態になっています。

預貸率の「適正な」値はどのくらいかというものはありません。預金のうちの何割を貸し出すのが正常な姿か。かつてオーバーローンと言われた時代には9割、100%を超えることがありました。どのあたりが「適正な水準」かということですが、私は8割前後が妥当だろうと考えています。沖縄や鹿児島でも70%台で、そろそろ問題になる水準かなと

思います。ただ、北海道の信用金庫はそれとはまったく違うレベルに置かれているというのが現状です。

詳しい説明は控えますが、「札幌市以外の地域」について、いくつかの地域をご紹介します。それが次の頁の第2図です。渡島・松山は、函館を中心とする地域です。釧路根室は釧路市を中核都市とする地域で、北海道の地図でいうと右下になります。旭川は北海道の真ん中です。網走地区は、オホーツク海に近い地域です。これらをご覧くださいただで、第1図以上に北海道の各地域の窮状を認識していただけるものと思います。これが「預金は入るがその貸出運用先はほとんどない」という北海道の、札幌以外の地域に共通する信用金庫の実態です。

預貸率が低くなってしまうというのはどういうことかということ、金融機関が預金を集める、それを地元の企業なり住民に貸し出す。それがまた所得を生んで、あるいは資本の流れの中で金融機関に戻ってくる。資金配分を伴いながら、その地域の中で資金が循環する。これが地域内資金循環の姿です。ただし、これで完結するわけではありません。各地域間をつなぐ地域間取引・循環も形成されていきます。金融のネットワークですね、その金融ネットワークの中心に位置するのが北海道で言えば札幌になっているというイメージです。ところが、地域内の循環が壊れてしまい、札幌に直接依存せざるをえなくなってしまう、これが預貸率の低下・札幌への資金の集中という現実の状況であろうと思います。

このような状況に直面して、地域金融機関としての信用金庫はどのような取り組み、対応をしているのか、レジメの3番目の項目に進みたいと思います。個々の信用金庫がいろいろなメニューを提示しております。その提示されたメニューにどの程度の実現性があるのか。様々なプランが提示されてはいますが、目新しいようでいて実現性が乏しいというように、現実に即した形で、何とかそれに手が届き、活用できるようなものは、私自身の目に留まるものはありませんでした。つまり、個別の金融機関が出している地域貢献というものは、あまり参考になりませんので、現実はどういうことをやっているのかという部分から、地域貢献を考えた方がいいだろうということです。作文ではなく、現実を見ていかないと難しい。その点から、個別の金融機関、信用金庫がどのような取り組みをしているかをご紹介します。

今日ご紹介する信用金庫の位置を確認するために、第5表をご覧ください。預金量の多い順に並べました。今日取り上げるのは、稚内信用金庫、遠軽信用金庫、渡島信用金庫です。

まず、稚内信用金庫が、どのような取り組みをしてきたかです。稚内信用金庫の預貸率

はすでに20%台です。預金の3割も貸出運用できない。ディスクロージャー誌を見ますと、各支店ごとに支店長の顔写真、設立年、預金高、貸出高が記載されています。ここまで情報公開をしている信用金庫は、私も見たことがありません。その支店の預金を所在地区ごとに集計すれば、地区ごとの預金がわかります。稚内信金はまず旭川に出店して、それから札幌に進出しました。地元から離れながら、拠点を広げつつあったという経緯にあります。札幌進出当時の数字までは追跡できませんでしたが、ディスクロ誌から拾い出すことができた数値で作成したのが第3図です。札幌に進出したことの効果が全くないわけではなく、地区別の預貸率、預貸金を見ますと、預金全体では札幌市は1割しかないのですが、貸出では17.5%を占めております。貸出については、札幌に出てきたことの意味があったと考えられます。最近こそ落ち込んできていますが、それでも札幌店の預貸率は稚内信金の中では一番高くなっています。札幌に出てきたことが、全体的に良い効果をもたらすというところまではいってないように評価できると思います。

預金の3割しか貸出運用できないとなると、ではそれ以外に何ができるか。信用金庫業界では預金と貸出の差額を「余資運用」と言い続けています。支払準備金にしたりということで預金の一部は手元に置く必要があります。しかし、半分以上が余った資金となると、これは明らかに概念上の混乱になると思います。余資、つまり貸出に回してお残った部分をどうしているかというところ、稚内信金は有価証券に回しております。そして、有価証券が、貸出金よりもはるかに多い状況になっております。今年の3月末で言いますと、3,000億円近い有価証券投資です。有価証券の中身を見てみると、地方債です。貸出では貢献できないから、債券を通じてという形で地方自治体に貢献しているという姿が浮かび上がります。残念ながら地方債の中身が公表されていないので、それが稚内市債なのか北海道債なのかというところまでは追跡できませんでした。これについては改めて、もう少し調べてみたいと思っております。ともかく、債券では全く地域貢献にならないということはありませんので、稚内信金がこういった形で地域貢献を試みているとは言えると思います。この「信用金庫による地方債投資」というものを「地域貢献のひとつの取組み・形」という面から、もう少し意義づけてみたいと思っております。

次に、稚内信金と同じ時期1990年代に札幌に進出してきた遠軽信用金庫の対応をご紹介します。先ほど見ました網走地区の遠軽町に本店があります。近くには北見という拠点都市がありますが、北見よりは旭川、更には札幌での業務展開を図っています。遠軽信金の預貸率は実は道内信金では比較的高く50%を超えています。地元ではほとんど資金運用できないはずなのになぜということですが、この疑問を解く鍵が第4図です。業種別で見ますと、貸出額のほぼ半分は不動産業に貸し出しています。これも驚くべき数値です。

全国的に見ても、これだけ不動産業に集中的に融資している個別機関は見当たりません。遠軽信金は、新聞でたびたび紹介されるように、この不動産融資の大半は、札幌市で行っているアパートローンで、アパート経営が成り立つように融資をするものです。つまり、遠軽信金は地元で運用困難な資金の運用を札幌市での不動産貸出に求めたわけです。では、地元の網走地区で、遠軽信金は地元の金融機関としてどれだけの意味を持つだろうか。たしかに、経営が成り立たないと地域貢献も何も成り立ちません。だから札幌に進出して不動産融資を開拓した、そのことで収入、収益が得られるようになった。収益基盤の強化にはつながったかもしれませんが、それが網走地区地域経済にどういった効果があるのかというと、かなり回り道をしないと、効果があるとはなかなか言えないのではないかと思います。この点についても今後もう少し詰めたかと考えております。

稚内信金、遠軽信金は札幌から遠く離れた信用金庫で比較的早期に札幌に進出した事例ですが、最近の進出事例ではどうだろうか。昨年10月札幌支店を開設した渡島信用金庫について、次にご紹介します。

渡島信用金庫は資金量を見てみますと、やっとな預金額1,000億円を超える規模の信用金庫です。預金量では道内23金庫中下から3番目、21位という小規模信金です。ところが渡島信金の預貸率は66%で、全国的には低いかもしれませんが、道内では上から2番目、札幌を地盤にする札幌信用金庫に次ぐ高い預貸率です。函館、渡島松山地区の預貸率が落ちてきているなかで、渡島信金はかなり高い預貸率を維持しています。この「高い預貸率」を支えている貸出面での動向を見たのが第5図の渡島信金の業種別貸出です。一番多いのは「製造業」です。中身的に言えばおそらく、水産加工の製造業だと思いますが、製造業に対する貸出が、今なお20%を超えています。製造業に対する、これだけの貸出率を保っている金融機関は、銀行も含めてあまり見当たりません。比較対照する意味で128頁下段に図表を載せておきましたので、参照してください。

このように、渡島信用金庫はずっと製造業に対する貸出を維持してきました。そしてそのことをバックにして、昨年、札幌市に札幌支店を開設したわけです。その際、渡島松山地区の水産加工業者・販売業者、一部農業者も含んでいるようですが、そういう人たちに協同組合を組織させた。その組合のアンテナショップを札幌支店内に設置し、地元製品の販売活動をしています。今日は第一土曜日ですから、おそらく今日は開いています。札幌支店に組合の人たちが来て、物品を紹介しながら試食販売をしております。私も2、3回訪れました。そうした形で市場開拓しながら、渡島松山地区の水産加工業を支援している。こうした形で地元地域経済への貢献、支援活動を展開しています。他の金融機関が製造業に対する融資をどんどん下げていく中で、地元の水産加工業者に対する融資をずっと

維持してきたという背景があればこそ、組合を組織するときにもおそらく賛同したであろうし、むしろ組織してほしいという希望があったのであろうと推測できます。こうした渡島信金の札幌支店開設に至る経緯、南北海道地産物流協同組合、アンテナショップの内部風景等につきましてはパンフレットの一部、店内写真、新聞記事等をつけておきましたので、後ほど参照していただければ幸いです。

時間が迫ってきましたが、最後に、参考図表資料の最後3枚を紹介させてください。金融庁、各地財務局では、地域密着型金融に対してユニークな取り組みをしている機関を顕彰する制度を実施しています。この3枚は北海道財務局のホームページから取りましたが、渡島信金の取組みも選定されております。「顕彰の理由」として、北海道財務局は「顧客・消費者目線に立って、地域活性化に向けて能動的に取り組んでいる」ことを挙げています。顕彰対象となった他の機関の取組みの「顕彰理由」に比べても、「具体性」の点で際立っているように思えます。その意味で渡島信金の取組みは地域経済、地域貢献の面で、地域貢献のあり方を探っている諸機関にとってもひとつの手本として大きな事例になるのではないかと思います。

地方にとって、信用金庫は現在、なくてはならない金融機関になっております。しかも、狭い地域の協同組織金融機関と言われます。広狭両面を含めて、地域内の生産・消費、物流の循環を何とか再建し、地域内資金循環を再構築していく、金融機関としての業務を最大限活かしながら、なおかつそこでの経済振興に貢献していく、そのひとつの取組み・在り方として、私は渡島信金の動向に今後も注目していきたいと考えております。

今日金融機関が置かれている状況とそれへの対応・取組みを題材に、地域金融、地域金融機関とは何であろうか、金融・金融機関は地域経済においてどんな役割を果たせるのであろうか、そんなことを考えました。北海道の3信用金庫の事例はある意味北海道に特徴的なものであるかもしれません。その他の事例を集めながら、そうした中から地域にとって金融とは何であるか、改めて考え直していきたいと思っております。中途半端な話で、明確な結論が出せないでおりますが、これで私の報告を終わります。どうもありがとうございました。

【報告④ レジメ】

はじめに

1990年代後半以降のこの十数年、北海道という地域の金融界はまさに「激動」とも言える時期を経験してきた。主要金融業態である銀行、信金、信組夫々で業態内の再編が生じ、業態間の編成にも変化が生じた。戦後の金融制度改革を経て、日本全体において同様北海道においても成立した「戦後金融体制」は、特に北海道において顕著な構造変化を引き起こした。

本報告では、着実な発展を見せてきた「北海道」の「信用金庫」が今日抱える問題点（預貸率の低下）を軸に、信用金庫が道内地域経済において取り組もうとしている姿勢の一端を紹介したい。

1 信用金庫の直面する問題点

1990年代後半以降、銀行・信組は経営破綻、経営統合、合併等により本店数（機関数）と同時に営業店も減らしたが、信金は本店数（金庫数）は減少させながら、営業店は横這いないむしろ増加させた。このような「店舗展開」のなかで、「銀行」は店舗数を減らしながらも預金・貸出金を増加・回復させ、「信用組合」は本店数・店舗数の減少が預貸金の減少と歩調を合わせている。他方「信用金庫」は、預金は着実に増加させつつも、貸出金は停滞状況を呈し、その結果「預貸率」（貸出金／預金）は急速に低下し、預金の半分も貸出金で運用できないという状況に陥った。

信用金庫は、「中小企業・個人・地方公共団体に特化した、協同組織（会員組織）の狭域地域金融機関」と性格づけられている。実態的にも道内信用金庫はその発足以来、営業地区（市町村・支庁）を基盤に、基幹業務である預金・貸出を通じて、資金仲介機能を果たしてきた。しかし、1970年代半ば以降徐々に、預金の伸び率と貸出金の伸び率に開きが生じ始め、預貸率の低下、地域内資金仲介に黄信号がとまり始める。1980年代以降その傾向は顕著となり、「地域内での資金運用」が困難化するに至る。

2 域内資金循環の機能不全の背景

道内各地域の「地域経済の停滞状況」は各地域均一に進んだわけではなく、一部都市周辺とりわけ「札幌市」と「その他地域」の間の格差拡大を伴いつつ、進展してきた。ヒト・モノ・カネの札幌への集中が進み、金融面でも「札幌一極集中」の傾向が強まっていた。預金の集中度以上に貸出の集中度は高まった。貸出つまり資金運用面の集中度がより高いことは、札幌以外での貸出・資金運用がより厳しくなっていることを意味する。

「信金の預貸率低下」は札幌以外の地域で殊に強く現れ、その地域の信金はより厳しい状況に置かれた。

3 機能発揮に向けた取り組み

信用金庫は立脚基盤たる「地域経済」の衰退、疲弊と資金運用難によって、域内資金循環を全うし得なくなった段階で、いかに地盤地域の「地域金融機関」として「地域での役割」を果たしていくか、それが今日的課題である。一方で「地域密着」を謳いつつ地元市町村との連携を強化する（指定金融機関の獲得、地方公共団体への貸出増加）も、他方では「営業地域の拡大と中心地札幌への進出」に向かわざるを得ないという、半ば相反する行動が現れている。

遠隔地に本拠を持ちながら1990年代に札幌に進出した稚内・遠軽信金は、「札幌での資金運用」に力を注ぎ、その成果も現れてきて。しかし、2007年から10年にかけて、札幌からの距離がある「小さな信用金庫」が札幌に進出してきている。これらの特徴は「資金運用難の打開策」ということを超えて、「地域経済との連関」「地域経済への貢献」を前面に打ち出している。

その一例が、地元製造業への貸出に重点を置き、そこで確固たる顧客をつかみ、「域内資金循環」に極力努めてきた渡島信金である。その地域基盤に基づき、道南の食品加工業者等を束ねて「南北海道地産物流協同組合」（道南特産品のPR、販売）に組織化、札幌支店内に「南北海道情報発信プラザ」を開設した。このプラザは毎月第1・3土曜日・日曜日に開かれ、道南の特産品を展示・販売する「アンテナショップ」の機能も果たすものである。成否は今後委ねられているが、規模の大小に関わりなく、「信用金庫」という「狭域協同組織金融機関」の「ひとつの方向性」として、注目に値する。

「地域貢献」あるいは「地域と共に歩む」、その具体的発現形態の多様性こそ、「地域」・「地域経済」の様々な有り様を示すものと考えられる。

〔報告④ 参考図表〕

地域経済における金融の役割

―戦後北海道の金融と信用金庫―

参 考 図 表

札幌大学経済学部 岩堀 洋士

- 1 (信用金庫の直面する問題点) 関連
 - 第1表 主要金融機関の店舗数の変化 (1965-2010年、北海道・鹿児島県・沖縄県)
 - 第2表 主要金融機関シェアの推移 (1965-2010年、北海道・鹿児島県)
 - 第3表 信用金庫の都道府県預貸金・預貸率 (2000-2011年)
- 2 (域内資金循環の機能不全の背景) 関連
 - 第4表 全道にしめる札幌市の預貸金シェア (1965-2005年、銀行・信金・3業態)
 - 第1図 「札幌市」と「その他地域」の預貸金動向 (1965-2010年、銀行・相互銀行・信金)
 - 第2図 道内各地区の「拠点都市・その他」の預貸金動向 (1965-2005年、渡島松山・釧路根室・上川留萌宗谷・網走、銀行・信金)
- 3 (機能発揮に向けた取り組み) 関連
 - 第5表 北海道の信用金庫: 預金・貸出金 (道内全信金、2000年3月・2005年3月・2010年3月)
 - 第3図 稚内信金預貸金: 地区別構成・地区別預貸率・有価証券平均残高
 - 第4図 遠軽信金の業種別貸出金 (2004-2011年)
 - 第5図 渡島信金の業種別貸出金 (2005-2011年)
 - 参照図 全国及び北海道、南九州信金の業種別貸出金の推移、北海道の銀行の業種別貸出金の推移
- 4 (渡島信金札幌支店及び南北北海道地産物流協同組合関連資料)
 - 渡島信金札幌支店内
 - 地方信金札幌出店関連新聞情報(北海道新聞) (省略)
 - 北海道財務局「地域密着型金融に関する取り組みへの表彰事例」

<第1表> 主要金融機関の店舗数の変化

(1) 北海道							(2) 鹿児島県・沖縄県						
	銀行		信用金庫		信用組合			銀行		信用金庫		信用組合	
	本店	支店等	本店	支店等	本店	支店等		鹿児島	沖縄	鹿児島	沖縄	鹿児島	沖縄
1965	4	405	33	280	12	52	107		61		41		
1970	4	386	33	307	15	72	115		68		55		
1975	4	384	33	346	15	93	120	146	76	19	56		
1980	4	430	33	405	15	120	160	162	93	20	64		
1985	4	496	33	474	15	136	195	198	119	24	72		
1990	4	552	33	507	15	145	209	207	122	26	71		
1995	4	555	32	534	15	150	212	205	124	26	69		
2000	3	516	31	523	12	145	212	190	127	26	68		
2005	3	411	25	519	8	119	207	176	117	20	57		
2010	2	393	23	526	7	108	192	185	113	19	49		

(出所) 北海道財務局『北海道金融月報』、他。

(出所) 1995年までは、日銀『都道府県別経済統計』

(注) 「銀行」に「相互銀行」を含む。
「支店等」は「出張所・事務所等」。

2000年以降は朝日新聞社『民力』

↑
1997年11月 北海道拓殖銀行経営破綻
2001年 不良債権処理強行

<第2表> 主要金融機関間シェアの推移

①北海道 (各年3月末、億円)								②鹿児島県 (各年3月末、億円)								
	銀行	信金	信組	労金	農協	郵貯	合計	銀行	信金	信組	労金	農協	郵貯	合計		
預貯金	1965	64.0	14.4	1.7	0.6	9.0	10.3	9,512	1965	49.4	12.7	2.4	0.6	15.6	19.3	1,862
	1970	58.1	15.6	2.3	0.7	10.1	13.2	20,140	1970	44.9	13.7	3.2	0.8	15.3	22.2	4,354
	1975	51.3	17.8	3.1	1.0	10.3	16.4	50,038	1975	42.2	12.6	4.1	1.0	15.7	24.2	12,023
	1980	46.8	18.2	3.4	1.3	9.2	21.2	100,886	1980	40.2	11.1	4.3	1.2	16.0	27.3	26,400
	1985	44.0	16.9	3.3	1.4	8.6	25.7	146,759	1985	39.3	10.6	4.1	1.4	15.9	28.7	59,186
	1990	44.8	16.2	3.1	1.5	8.0	26.4	204,313	1990	40.6	11.2	3.3	1.5	13.3	30.1	55,201
	1995	40.4	16.4	3.2	1.5	8.5	29.9	261,828	1995	37.8	11.3	3.2	1.5	12.4	33.8	73,103
	2000	37.4	16.8	2.6	1.7	7.8	33.8	308,453	2000	37.1	10.1	2.9	1.6	10.9	37.3	86,627
	2005	40.5	18.7	2.1	2.2	8.8	27.8	306,601	2005	40.7	10.2	2.8	2.1	12.6	31.6	82,957
	2010	44.2	20.0	1.9	2.6	9.5	21.8	311,827	2010	45.6	10.0	2.8	2.4	14.0	25.3	82,316
貸出金	1965	71.9	14.3	1.8	0.5	11.4	6,998	1965	59.9	15.4	2.8	0.8	21.0	1,161		
	1970	66.1	16.9	2.7	0.9	13.4	14,756	1970	54.0	17.9	4.3	1.2	22.7	2,767		
	1975	63.2	20.5	3.7	1.3	11.2	33,327	1975	56.4	17.6	6.0	1.5	18.5	6,982		
	1980	59.4	23.0	4.5	1.9	11.3	61,985	1980	56.6	16.6	6.9	1.8	18.1	14,548		
	1985	64.4	20.0	4.2	1.7	9.8	90,745	1985	60.2	14.9	5.9	1.6	17.3	21,954		
	1990	71.1	17.7	3.9	1.4	5.9	117,434	1990	66.7	17.1	4.7	1.6	9.9	25,916		
	1995	70.0	18.2	4.2	1.9	5.7	149,109	1995	64.3	19.6	5.7	2.0	8.4	32,092		
	2000	65.1	21.2	3.9	3.2	6.7	142,631	2000	65.2	17.6	4.9	3.0	9.3	37,175		
	2005	63.7	22.2	3.2	4.1	6.9	135,354	2005	65.6	16.6	4.3	4.4	9.0	35,581		
	2010	65.1	21.5	2.4	4.4	6.5	144,035	2010	68.4	14.2	3.4	3.9	10.0	39,241		
預貸率 (%)	1965	82.6	73.6	79.7	64.4	93.0		1965	75.7	75.8	73.3	75.0	84.1			
	1970	83.3	83.3	83.3	83.3	83.3		1970	76.5	82.7	85.7	91.4	94.4			
	1975	82.0	82.0	82.0	82.0	82.0		1975	77.6	79.9	84.6	83.2	68.5			
	1980	77.9	77.9	77.9	77.9	77.9		1980	77.5	82.7	87.9	85.5	62.5			
	1985	90.5	73.0	77.0	72.6	70.4		1985	85.8	79.2	81.2	64.4	60.8			
	1990	91.2	62.7	72.9	53.7	42.7		1990	77.2	71.5	66.9	51.0	35.0			
	1995	98.6	63.0	74.8	71.5	38.3		1995	74.6	76.3	77.8	56.1	29.8			
	2000	80.6	58.4	69.5	83.9	39.7		2000	75.4	74.8	72.5	78.5	36.6			
	2005	69.4	52.5	66.1	83.3	34.5		2005	69.0	69.7	67.3	91.5	30.8			
	2010	68.0	49.8	59.0	79.3	31.6		2010	71.6	67.8	59.2	77.9	34.2			

(出所) 第1表に同じ。2010年の「銀行」「農協」については数値修正を行った。

三大学院共同シンポジウム

<第3表> 信用金庫の都道府県別預貸金・預貸率
 信金中央金庫『全国信用金庫概況』各年度版、より
 各年3月末、単位：億円、%

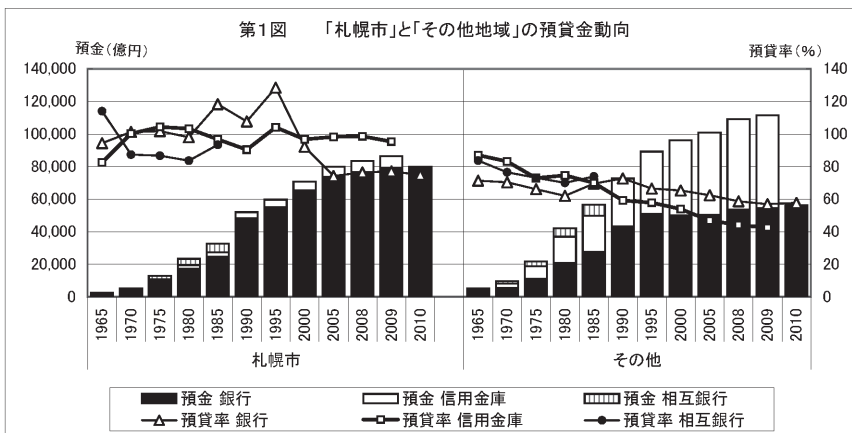
		2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	
預金	北海道	51,708	53,392	54,597	55,302	56,194	57,186	57,986	59,139	59,718	60,763	62,250	63,609	
	東北	192,017	194,416	190,125	193,270	196,904	200,760	205,070	207,953	211,882	213,415	216,092	219,358	
	関東	52,423	53,117	53,946	54,389	56,394	57,940	60,058	61,648	63,108	63,772	64,163	65,346	
	静冈	51,899	53,411	53,996	54,787	56,099	57,390	58,337	59,727	61,238	62,918	64,493	66,953	
	愛知	93,494	97,390	98,361	100,078	102,846	105,595	107,493	109,957	113,188	115,960	117,888	121,203	
	京都	60,176	56,689	55,033	56,187	57,516	59,413	60,952	62,613	64,284	65,225	67,787	69,708	
	大阪	56,836	59,212	56,625	54,714	55,302	54,942	55,599	57,020	57,988	58,640	60,179	62,131	
	兵庫	69,251	71,011	68,402	68,316	69,080	70,879	72,708	75,315	77,636	78,730	79,783	81,043	
	広島	8,735	8,753	8,426	8,465	8,544	8,495	8,305	8,238	8,105	8,027	8,219	8,429	
	福岡	1,020,321	1,038,043	1,028,198	1,035,536	1,055,176	1,074,325	1,092,212	1,113,773	1,137,275	1,154,531	1,173,807	1,197,465	
	全国	3,019,771	3,071,151	3,031,151	3,045,151	3,085,151	3,125,151	3,165,151	3,205,151	3,245,151	3,285,151	3,325,151	3,365,151	
	貸出金	北海道	30,197	29,377	29,521	29,629	29,856	30,000	30,653	31,013	31,110	31,786	31,002	30,573
		東北	135,175	131,382	125,915	124,446	123,526	123,027	123,509	124,507	123,892	123,048	122,518	120,147
		関東	37,667	36,300	34,877	34,190	34,260	34,658	35,725	36,229	36,703	37,133	36,573	36,419
静冈		34,040	33,822	33,109	33,014	32,803	32,861	33,257	33,770	33,792	35,225	35,652	35,953	
愛知		57,810	57,253	56,388	56,077	56,559	56,705	57,270	58,758	59,402	61,438	61,459	62,610	
京都		45,414	38,114	37,147	36,343	36,534	36,926	37,729	39,084	39,588	40,407	40,571	40,543	
大阪		42,187	41,910	39,311	35,895	34,984	34,238	34,991	35,840	35,556	36,140	36,332	37,000	
兵庫		45,373	45,145	42,535	41,118	40,204	40,014	40,824	41,761	42,125	43,058	42,344	41,946	
広島		6,536	6,370	6,216	5,968	5,903	5,918	5,739	5,576	5,448	5,552	5,573	5,670	
福岡		687,159	661,879	639,805	626,343	622,365	620,949	626,702	634,953	635,433	648,786	641,575	637,551	
全国		2,315,151	2,285,151	2,245,151	2,235,151	2,245,151	2,255,151	2,265,151	2,275,151	2,285,151	2,295,151	2,305,151	2,315,151	
預貸率		北海道	58.4	55.0	54.1	53.6	53.1	52.5	52.3	52.4	52.3	52.3	49.8	48.1
		東北	70.4	67.6	66.2	64.4	62.7	61.3	60.2	59.9	58.5	58.6	56.7	54.8
		関東	71.9	68.3	64.8	62.9	60.8	59.8	59.5	58.8	58.2	58.2	57.0	55.7
	静冈	65.6	63.3	61.3	60.3	58.5	57.3	57.0	56.5	55.2	56.0	55.3	53.7	
	愛知	61.8	58.8	57.3	56.0	55.0	53.7	53.3	53.4	52.5	53.0	52.1	51.7	
	京都	75.5	67.2	67.5	64.7	63.5	62.2	61.9	62.4	61.6	62.0	59.8	58.2	
	大阪	74.2	70.8	69.4	65.6	63.3	62.3	62.9	62.9	61.3	61.6	60.4	59.6	
	兵庫	65.5	63.6	62.2	60.2	58.2	56.5	56.1	55.4	54.3	54.7	53.1	51.8	
	広島	74.8	72.8	73.8	70.5	69.1	69.7	69.1	67.7	67.2	69.2	67.8	67.3	
	福岡	67.3	63.8	62.2	60.5	59.0	57.8	57.4	57.0	55.9	56.2	54.7	53.2	
	全国	67.3	63.8	62.2	60.5	59.0	57.8	57.4	57.0	55.9	56.2	54.7	53.2	

<第4表> 全道に占める札幌市の預貸金シェア

		(単位：億円、%)									
		1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	
銀行	預金	全道	4,976	9,388	20,489	38,028	52,240	91,561	105,834	115,285	124,174
		札幌市	1,993	4,133	9,557	17,352	24,582	48,297	54,886	65,348	73,754
	貸出金	全道	4,009	7,882	16,953	29,829	48,314	83,473	104,374	92,897	86,225
信用金庫	預金	全道	1,366	3,134	8,919	18,315	24,863	33,138	43,062	51,708	57,186
		札幌市	156	321	1,060	2,089	2,775	3,757	4,757	5,419	6,221
	貸出金	全道	1,181	2,663	6,839	14,263	18,146	20,775	27,116	30,197	30,000
3業態合計	預金	全道	7,457	14,855	34,601	65,532	89,399	124,699	148,897	166,994	181,360
		札幌市	2,443	5,257	12,858	23,991	32,727	52,054	59,642	70,767	79,975
	貸出金	全道	6,214	12,418	27,895	51,062	76,596	104,248	131,490	123,094	116,225
銀行	預金	札幌集中度	40.0	44.0	46.6	45.6	47.1	52.7	51.9	56.7	59.4
		札幌集中度	46.9	53.1	57.4	57.0	60.2	62.3	67.5	64.9	63.5
	貸出金	札幌集中度	11.4	10.2	11.9	11.4	11.2	11.3	11.0	10.5	10.9
信用金庫	預金	札幌集中度	10.9	12.1	16.2	15.1	14.8	16.3	18.3	17.4	20.4
		札幌集中度	32.8	35.4	37.2	35.7	36.6	41.7	40.1	42.4	44.1
	貸出金	札幌集中度	37.7	41.9	45.8	44.0	48.0	53.1	57.4	53.2	52.4

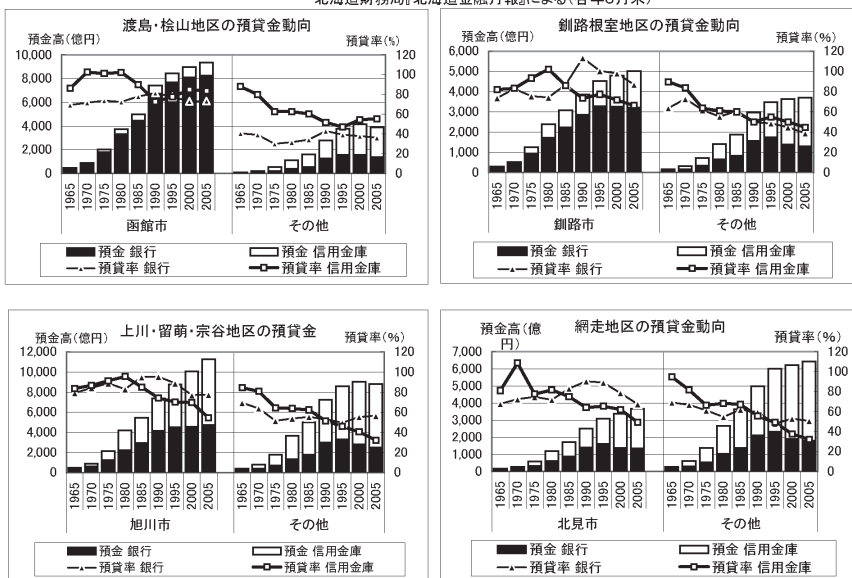
(出所) 北海道財務局『北海道金融月報』による(各年3月末)

(注) 「3業態」とは、銀行・相互銀行・信用金庫。



(出所) ①2005年までは、北海道財務局『北海道金融月報』より。各年3月末。
 ②「札幌市外」は「北海道」から「札幌市」を控除した数値。
 ③2008年以降は、「札幌市」は「札幌市統計書」、北海道の「銀行」は、日本銀行「都道府県別預金貸出金」、「信用金庫」は 信金中央金庫「地区別預金・貸出金」統計、より。各年12月末。

第2図 道内各地区の「拠点都市・その他」の預貸金動向
 北海道財務局『北海道金融月報』による(各年3月末)

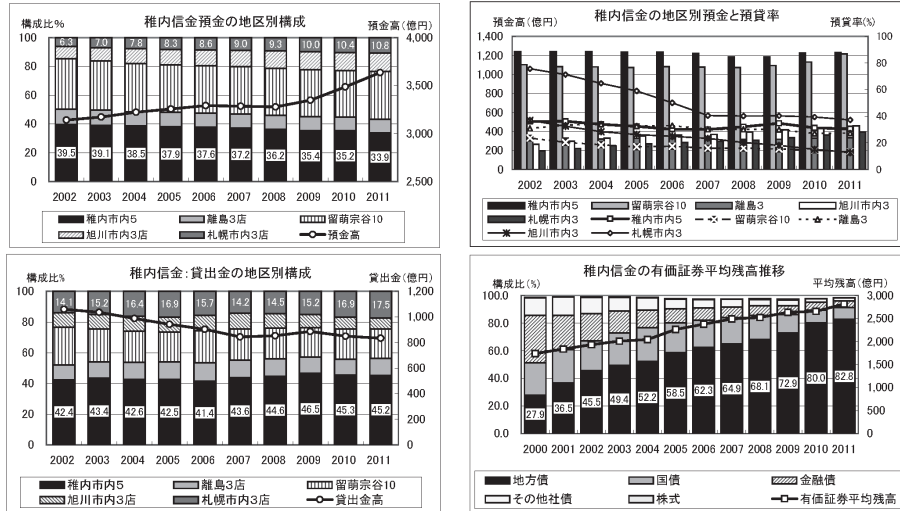


<第5表> 北海道の信用金庫：預金・貸出金

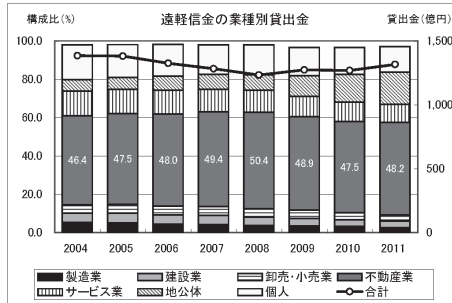
2000=H12/03				2005=H17/03				2010=H22/03				
	預金	貸出金	預貸率		預金	貸出金	預貸率		預金	貸出金	預貸率	
帯広	492,046	286,923	58.3	旭川	632,158	343,935	54.4	旭川	689,773	324,310	47.0	
旭川	462,909	291,371	62.9	帯広	545,899	267,395	49.0	帯広	584,642	275,875	47.2	
札幌	294,274	191,986	65.2	札幌	387,933	251,211	64.8	札幌	431,291	291,210	67.5	
稚内	293,458	111,665	38.1	北海	386,966	223,328	57.7	北海	429,540	205,344	47.8	
小樽	292,426	191,440	65.5	稚内	326,407	94,098	28.8	稚内	397,867	242,021	60.8	
北海道	270,821	151,520	55.9	苫小牧	320,085	174,834	54.6	苫小牧	341,579	206,400	60.4	
空知	251,852	152,025	60.4	室蘭	293,377	149,412	50.9	室蘭	323,757	159,232	49.2	
北見	240,474	139,364	58.0	空知	272,724	130,583	47.9	空知	284,127	129,002	45.4	
網走	237,331	138,205	58.2	大地みらい	266,778	138,445	51.9	大地みらい	275,597	133,703	48.5	
網走	188,067	80,269	42.7	北門	255,366	121,582	47.6	北門	241,587	126,926	52.5	
遠軽	187,998	129,449	68.9	遠軽	212,953	101,927	47.9	遠軽	241,056	108,849	45.2	
北門	176,734	99,163	56.1	網走	208,802	138,187	66.2	網走	227,411	89,566	39.4	
根室	175,547	101,008	57.5	釧路	202,288	89,714	44.3	釧路	218,022	83,897	38.5	
留萌	140,038	86,077	61.5	留萌	157,076	86,253	61.3	留萌	179,409	100,446	56.0	
釧路	135,370	89,289	66.0	伊達	152,438	88,097	57.8	伊達	165,168	71,725	43.4	
江差	128,457	76,720	59.7	伊達	135,076	71,639	53.0	留萌	162,519	85,940	52.9	
富良野	121,358	76,471	63.0	江差	130,736	77,673	59.4	江差	132,890	68,154	51.3	
伊達	119,418	72,325	60.6	小樽	121,258	71,153	58.7	小樽	124,396	67,968	54.6	
函館	115,075	72,899	63.3	紋別	119,647	49,875	41.7	函館	121,579	75,891	62.4	
紋別	113,624	59,380	52.3	函館	115,135	51,801	45.0	函館	117,462	77,538	66.0	
紋別	103,938	59,160	56.9	函館	113,797	75,704	66.5	渡島	97,151	50,739	52.2	
* 渡島	96,157	65,300	67.9	* 渡島	105,360	72,723	69.0	* 日高	88,467	40,484	45.8	
* 日高	89,724	43,441	48.4	* 日高	95,554	45,236	47.3	* 北空知	23	6,224,988	3,100,202	49.8
* 士別	89,382	49,793	55.7	* 士別	81,672	40,063	49.1					
* 北空知	72,961	40,183	55.1	* 北空知	79,113	35,112	44.4					
* 北空知	67,805	40,055	59.1	25	5,718,598	2,999,980	52.5					
道庁	62,975	48,534	77.1									
石狩中央	59,993	37,491	62.5									
厚岸	56,431	23,878	42.3									
古平	18,455	9,375	50.8									
千歳	15,713	4,931	31.4									
31	5,170,826	3,019,705	58.4									

(出所) 2000年は全国信用金庫協会「信用金庫」より
2005・2010年は、金融庁「中小・地域金融機関の主な経営指標」より。

<第3図> 稚内信用金庫預貸金の地区別構成と有価証券平均残高推移



<第4図> 遠軽信用金庫の業種別貸出金



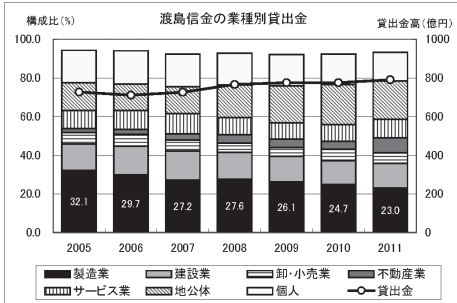
(出所) 遠軽信金ディスクロージャー誌より。

「遠軽信金が札幌でアパートローンを扱いはじめたのは1992年の札幌1号店の開設後にさかのぼる。当時から本店のある遠軽地区では人口減少に伴う地域経済の衰退が指摘されており、新たな収益基盤の確立が急務だった。当時、信託銀行くらいしか扱ひのなかったアパートローンを目をつけ、積極展開を始めた。今では札幌地区4店での貸出高は500億円弱、信金全体でも4割を占める。(中略)

遠軽信金のように札幌で融資を獲得するには10年以上の積み重ねがあった。道内信金の未来を開くためには今後10～20年先を見据えた種まきが欠かせない。」

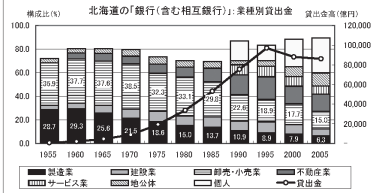
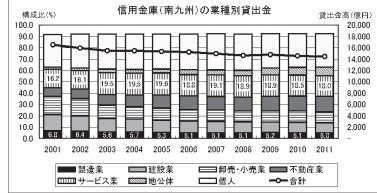
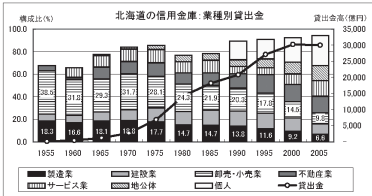
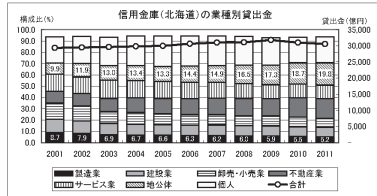
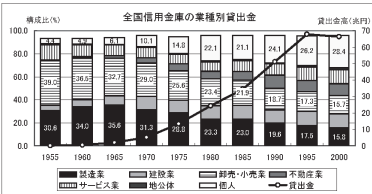
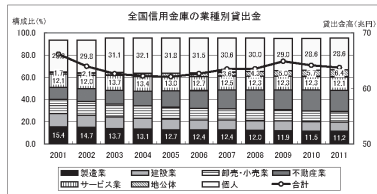
(『日本経済新聞』2009年12月1日「北海道経済」面、「信金サバイバル④」、より)

<第5図> 渡島信用金庫の業種別貸出金



(出所) 渡島信金ディスクロージャー誌より。

(参照図) 信用金庫の業種別貸出金状況




(出所) ①左図は、債金中央金庫「全国信用金庫概況」より作成。
②右図の「全国」分は全国信用金庫協会「信用金庫50年史」(2002年)、北海道分は北海道財務局「北海道金融月報」による。

渡島信用金庫および北海道特産アンテナショップ「みなほっの杜」案内パンフ

渡島信用金庫札幌支店および店内風景(アンテナショップ「みなほっの杜」) 2010.12.19



北海道財務局 http://hokkaido.mof.go.jp/kinyu/tyuusyou_kinyu/kensyou/22/22hokkaido.pdf より



平成 23 年 3 月 24 日

平成 22 年度 地域密着型金融に関する取組みへの顕彰について (北海道財務局)

北海道財務局では、地域密着型金融に関する「特に先進的な取組み」や「広く実践されることが望ましい取組み」を行っている管内の地域金融機関（地域銀行、信用金庫、信用組合）に対し、顕彰を実施しました。

顕彰の対象については、「中長期的な視点に立った組織全体としての継続的な取組み」や「コンサルティング機能を発揮している取組み」を重点的に選定しております。

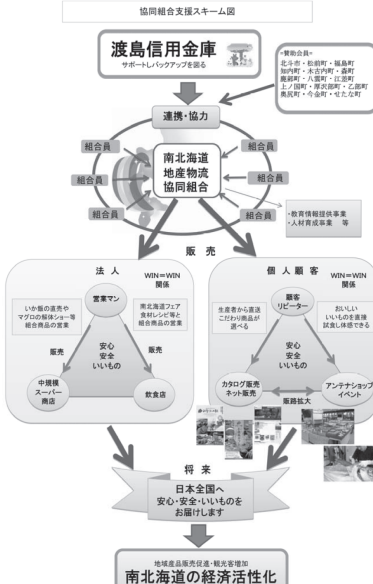
なお、本件は当局が委嘱している金融行政アドバイザーの審査を経て選定しております。

【顕彰対象の金融機関】※掲載は金融機関コード順です。

取組みのテーマ・顕彰の理由

金融機関	取組みのテーマ	顕彰の理由
北海道銀行	モノづくり企業への各種支援事業について	ISO 審査登録や HACCP 認証取得の支援を通じて企業の付加価値を高める支援に取り組んでいる点
札幌信用金庫	地域密着による中小企業支援	中小企業の実態を捉え、経営悪化の未然防止に努めている点
渡島信用金庫	協同組合への支援による地域活性化への取組み	顧客・消費者目線に立ち、地域活性化に向けて能動的に取り組んでいる点
旭川信用金庫	旭川しんきんプロモーションセンターの取組み	新しい店舗活用に着眼して、独自のツールで稼働強化しようとしている点
留萌信用金庫	ふるしんNPOサポートローン	官民連携に金融面からも支援することで、地域性の利便性に寄与している点
北空信用組合	アパレル経営における「F改費支援の取組み」	顧客支援を通じて企業と金融機関との間で winwin の関係を構築しようとしている点

※各金融機関の「取組みのテーマ」をクリックすると、各金融機関が作成した取組みの概要がご覧いただけます。



協同組合支援スキーム図

渡島信用金庫
サポート・バックアップを施す

連携・協力

組合員

北海道地産物産協同組合

法人

winwin 関係

個人顧客

win-win 関係

日本全国へ安心・安全・いいものを届行します

地域産品販売促進 観光客増加 北海道の経済活性化

北海道財務局 http://hokkaido.mof.go.jp/kinyu/tyuusyou_kinyu/kensyou/22/22oshima.pdf より

協同組合への支援による地域活性化への取組み (分野) 地域全体の活性化、持続可能な成長を視野に入れた同時的・一体的な面的再生への取組み

(金融機関名) 渡島信用金庫

1. 動機 (経緯)	渡島信用金庫は平成 23 年度に創業 100 年を迎えますが、この 100 年でお世話になった当金庫営業地区を含む北海道(函館を中心とする渡島総合振興局及び檜山振興局の 18 市町)地区への恩返しと、地域密着型企業の「販路拡大」「売上・利益の向上」を図るために事業者と一体となり協同組合の設立を企画し、当金庫がアドバイザー役となり協同組合を設立致しました。
2. 概要	北海道地産物産協同組合は、札幌圏をはじめとする多くのお客様に北海道の「いいもの」「美味しいもの」を伝えたいとの願いで、平成 22 年 7 月 22 日、北海道の食品加工業者、農業者、卸売業者、サービス業者等の 22 社(現在 6 社加入し 28 社)が組合員となり、北海道 15 市町及び渡島信用金庫(当金庫理事長は当該組合の顧問でもある)が賛助会員となって設立した協同組合であります。 なお、当該組合は、北海道(渡島総合振興局及び檜山振興局)で事業を行う事業者を対象とし、業種についても幅広い方を対象としていることから、広域的な多業種の協同組合となっております。更に休日には当金庫札幌支店を無償提供し、北海道地産物産協同組合のアンテナショップ(みなほつち)を開設しております。協同組合の設立にともない当金庫は組合のアドバイザー役として、創業支援、ビジネスモデルの検討、アンテナショップの企画等様々な活動を支援しております。
3. 成果 (効果)	協同組合への当金庫支援により下記のような成果があります。 ①アンテナショップ・イベント…当金庫札幌支店を無償で提供し、毎月第 1 第 3 土・日曜日に開催しております。今まで 6 回アンテナショップをおこなっておりますが多数の来場者があり大変好評です。 ②カタログ販売……通年カタログ・お歳暮カタログを発行し、好評を得ております。(現在お中元カタログ作成中) ③ネット販売……北海道産をセールスポイントとして組合員の顔や言葉、こだわりを掲載し「美味しいいいもの」を全国へ共同発信中。 ④法人営業………規模スーパー・飲食店へ「マクロの解体ショー」「か飯の直売」など企画営業を実施予定。法人営業を始めた段階ですが、札幌の事業者の方々から「一度に組合員の商品を購入できる」と言うことで便利だという声を頂いております。 ⑤教育・人材育成事業……セミナーや講演会により組合員に有益な情報を提供、研修などで人材育成を行っております。
4. 今後の予定 (課題)	組合員(生産者)を増加させる計画であり、商品のラインナップの増加、企業同士の繋がりで新商品が生み出される可能性が高まり、更なる北海道の特産品の販路拡大を図りたいと思っております。継続的に当金庫本部及び札幌支店において協同組合の運営・営業・企画に対する支援をおこなって参ります。また、当面、組合員数は 50 社程度(5 年後には 100 社)を目標としており、今後 1 年～2 年で基盤整備を図っていきます。 協同組合の取り組みは、地域経済や地域社会のことを考えた取り組みで、「おいしい」「いいもの」「安心・安全」を知って頂くことにより、北海道の商品または企業を知って頂きます。そして、北海道の生産者が一体となり力をあわせることにより、札幌、北海道、日本全国、世界の方々にもいいものをよりよく提供でき、生産者と消費者がお互いに WIN=WIN の関係になります。 北海道の特産品の販路拡大やビジネスマッチングを継続的に実施することで、北海道の特産品の売上増加、雇用の創出、人口減少の歯止めの一助になると考えており、当金庫としてこれまでの中小零細企業へのビジネスマッチングや販路拡大とは一歩も二歩も踏み込んだ形での恒常的な支援を続け、地域活性化に努めて参ります。